

令和6年度第4回八潮市学校給食審議会開催結果について

令和7年3月24日（月）に開催した令和6年度第4回八潮市学校給食審議会の開催結果の概要は次のとおり。

1. 開催日時 令和7年3月24日（月）午後2時30分～午後4時10分
2. 開催場所 市役所会議室4-2
3. 出席者 委員13名（欠席2名）
事務局9名
教育長、教育部長、教育部理事、教育部副部長兼学務課長、
学務課副主幹、保健給食係長、主任、栄養士（2名）
4. 傍聴者 3名

5. 会議内容

議事前の報告事項等について

①公設の給食センターの候補地について

- ・資料1に沿って事務局から説明（県立八潮高等学校跡地の一部を活用）

・会長から追加説明

前回の第3回審議会では候補地について具体的な提示がない中、「土地の確保次第で設置方法が変わる。丁度よい大きさの土地があり、ある程度離れた距離に2カ所あれば、2カ所建てられるが、同時期に2カ所の土地が提供できることが難しいことが考えられるため、実現可能な設置方法は②か③、財源も考慮しながら考えていきたい。」と前回の審議会でもとめさせていただいた。今回、教育委員会としては八潮高校の跡地を活用したいとの説明があった。どの設置方法がふさわしいかについては、議事の（2）で皆様からご意見をいただきたいと思う。

【質疑応答等（抜粋）】

○候補地についての質疑

委員：特別支援学校の過密対策について、基本設計を令和7年度単年度で行うという認識でよろしいか。

⇒事務局：配付資料は県から公表されているものであり、基本設計の期間が単年度か複数年度かは確認が必要だが、これから基本設計を行っていく段階で、特別支援学校の必要面積が具体的にわかってくると思われる。

委員：基本設計の前に基本方針・基本構想が行われる認識でいる。基本設計を行っている現時点で八潮市と県で何かしらのイメージが共有されているとの認識でよろしいか。

⇒事務局：基本設計の前にビジョン的な案〔埼玉県特別支援教育推進計画案（令和7年度～令和9年度）はすでに公表されているが、これから県と情報共有をする予定である。

委員：土地の広さがこれから決まるということで、厳しいスケジュールであると思う。

委員：給食センターの整備は八潮市民全体に関わる公的なものであると考えるが、市民から土地の寄付について、募集する考えはあるか。

⇒事務局：給食センターについては、1万平米を超える非常に大きな土地が必要なたため、その広さの土地を民間から無償でいただくことや借りることは想定していない。

委員：給食センターが何年稼働できるか等を考慮し、期限を区切ってでも寄付を募れないのか。市街化調整区域であれば、勝手に建物を建てられるものではないため、市街化調整区域の寄付であれば可能性があるのではないか。

⇒事務局：八潮高校の跡地は市が元々持っていた土地に県立学校を作るということで提供した経緯がある。特別支援学校では、グラウンド部分の全ては使わないことと想定をしているため、グラウンド部分の一部を返還していただき、給食センターを整備していきたいと教育委員会では考えている。

委員：八潮市民のための給食センターを整備するので、市民の方に寄付を募れば、市民の方も「自分たちの給食センター」という思いになるのではないか。

議事（1）公設給食センターを整備する上でリスクを含めた優先すべき事項について

- ・資料1 および当日追加資料「修正後（番号削除）」に沿って事務局から説明
前回の審議会で配付した案について、「優先すべき事項」はどれも重要だという意見が出たため、優先の番号を削除した。また、「子どもたちの意見を取り入れる」という意見も出ていたため、「子どもたちの意向に寄り添う」という文言を優先すべき事項に追加した。

【質疑応答等（抜粋）】

委員：「子どもたちの意向に寄り添う」という文言を取り入れてくれたことはよかったが、「生徒と教職員の要望に応えられる給食」という文言を入れてほしい。民間委託の場合、子どもの意向が直接、反映できない状況であるため、すぐに反映できる状態にしてほしい。

- 委員：「生徒と教職員の要望に応えられる給食」は前提として、「子どもたちの意向に寄り添う」も含まれていると思う。子どもたちの意向というのは、そこに関わる教職員等も含まれると考えられるため、文言はこのままで、実際の運用面で取り入れていけば良いのではないか。今回は資料にある優先事項の8項目で良いのではないか。
- 委員：子どもと教職員と給食センターの気持ちを通じ合うことを目指してほしい。「意向に寄り添う」では、どうやって要望に応じていくのか、不明確であるため、「要望に応えられる」の方が良い。
- 委員：教職員は子どもたちの意向を踏まえて要望等の意見を出すため、「子どもたちの意向に寄り添う」でいいのではないか。
- 委員：教職員は生徒とは別の目線での意見が出てくる。栄養面の配慮であれば、教職員の意見は生徒とは別として扱うべきであるため、「教職員」も文言に入れた方が良い。
- 委員：担任は児童生徒と一緒に給食を食べており、年に4回行われている給食研究委員会では各学校の教職員が子どもたちの意見を吸い上げて、要望を伝えている。教職員が会議に参加することによって教職員の意見も反映されていると思う。
- 委員：給食研究委員会では、ディスカッション方式で献立を確認しながら、細かいところまで意見を出し合っている。給食提供事業者も参加しており、年4回開催している。公設の給食センターでも職員や子どもたちやPTAの意見を吸い上げていけると思うので、「子どもたちの意向に寄り添う」という文言で教職員についても網羅されていると思う。
- 委員：現在の給食提供事業者は民間企業であるため、こちらの要望にすべて応えることができない場合もあるのではないか。公設の給食センターでは現在よりも意見が反映できるようになると思う。栄養教諭が今は配置されていないが、様々な要望を吸い上げる体制づくりができれば、給食を食べる人と作る人の隔たりがなくなるのではないかと思う。「意向に寄り添う」という表現はあまりにも漠然としているため、「要望に応えられる」という文言を私は入れたいと思う。
- 委員：それぞれ意見はあったが、給食研究委員会での話もあったことから「子どもたちの意向に寄り添う」ということで、関係者を広くとらえることができるのではないか。
- 委員：子どもたちの目線と教職員の目線は違うと思う。
- 委員：関係者を広くとらえられるという観点から「子どもたちの意向に寄り添う」で進めていきたいと思うがどうか。
- 委員：前回の審議会での発言から追加してもらった部分のため、より明確化したつ

もりだったが、これ以上、この部分だけこだわっても話が進まないのでは議長にお任せする。

議事（２）優先すべき事項及びリスク分散を踏まえた複数設置の考えについて

・資料１および資料２に沿って事務局から説明

【質疑応答等（抜粋）】

○資料２についての質疑

委員：②の建て方であると栄養教諭３名で、③の建て方だと栄養教諭が合わせて４名配置される見込みが高いとなっているが、３名の場合には、食育を充実させるために市費の栄養士を１名配置することもできるという認識でよろしいか。

⇒事務局：必要に応じて可能であると思われる。

委員：建て替え用地の必要面積の資料について、炊飯施設のスペースも入っているが、２カ所に炊飯施設を設置した給食センターを建設し、建て替えのときは片方の炊飯施設を調理施設に変えて、建て替え中に限り、２倍のおかずを一時的に１カ所で作り、炊飯を一時的に委託することで比較的成本が少なく建て替えを実現できるのではないか。

委員：想定される食数の炊飯施設になると、しっかりした炊飯設備が必要となるため、炊飯施設でおかずを作るということは不可能と思われる。また、建物の減価償却は国の基準だと５０年だったと思う。補助金を受けるには建設後、５０年程度必要となり、補助金が無ければ建て替えは難しいと考える。建て替えを考えることは必要なことであるが、これからの人口推移なども想定しにくい５０年先の建て替えを現時点で考えることは難しい面もあるのではないか。

委員：建物の建て替えだけでなく、設備更新も必要と前回までに話が出ていたが、今回の資料はどちらを示しているか。

⇒事務局：建物の建て替えを前提に示している。

委員：確かに建物の建て替えであれば、炊飯施設を調理施設に変えることは難しいと思う。調理ラインの変更や設備の更新は、そこまで先のことではないため、早めに話し合うべきではないか。ご飯のラインを調理施設に変えることは難しいと思うが、他のスペースで一時的に調理ラインを作ることは可能か。

委員：２つの調理施設を持っていて、片方の改修をした経験があるが、調理機能の２倍の給食を作ることはリスクの観点を含め、やはり不可能であったため、半数の給食については外部に委託して改修までの数ヶ月間は給食を持って

きてもらって乗り切った。学校給食施設は文科省の基準となるため、食数に対しての面積を考えると一般の施設より、かなり余裕のある基準になっている。例えば、10年後には設備や調理機器は数段、向上していると思われるので、効率的な改修の方法が確立されていくと思う。様々な調理機器がいつか壊れることはないため、更新計画を立てて計画的に少しずつ設備を更新していけば問題ないと思う。

委員：前回までは炊飯施設を入れたほうがよいという話も出ていたが、予算面や面積がわかり次第、炊飯施設の在り方について決めればよいことである。まずは、早く新しい施設を建てるのが重要だと思う。

委員：災害時には炊き出し機能が必要となるので、炊飯施設は付けた方がよいと思う。

委員：建て替えについての各委員の意見について、すべてを解決する方法は1棟で7,000食作れる施設を建てればよいが、かかる費用が大きいため、現実的には難しい。また、資料にある「事業手法」について、PFI方式であれば5,000食以上が主流になっている認識であるが、合計で5,000食以上であっても一棟あたり5,000食未満になるとPFI方式は難しくなるのか。

⇒事務局：事業手法はこれから決めていくこととなるが、ある業者から聞いた話では、5,000食未満では難しいと伺ったため、いったん記載させていただいている状況である。

委員：給食センターが1つしかないと何がおこるかわからないため、リスク分散の観点から、別の場所で2カ所あった方がよい。また、自家発電や水道がストップしたときに対応できるように複数設置が望ましい。

【質疑応答等（抜粋）】

○設置方法について

委員：前回までは具体的な候補地が無い中で意見を出し合っていたが、今回はある程度の面積が市に返還される可能性のある八潮高校の土地について説明があったため、改めて各委員から設置方法についてご意見を伺いたい。

委員：以前から②か③の建て方がよいと思っていたため、②か③が良い。後は確保できる土地次第である。

委員：衛生管理ができる施設が1番重要であるため、調理場が2カ所あった方が、もしものことがあったときに良いため、②か③が良いが、少しでも離れている方の③の方がより良いと思う。

委員：跡地について、広い土地が確保できれば③であり、災害の観点から考えても②より③の方が優位性は高いと思う。ただし、財源的には②の方が優位性は

高いため、将来的な市の負担や県との協議の中で確保できる土地の広さにより②か③のどちらかになると思う。

委員：ランニングコスト（概算）の年間約5千万円の差が市にとってどれぐらい負担となるのか。また、建設用地（概算）については10億円もの差があるが、財政的な面を考慮しなければ、③の建て方が良いと思う。

委員：③の建て方が良いと思う。きちんとした運用ができれば②でもいいが、人的ミス等を考えると、③の方が良いと思う。財源面を考えると、②でうまく運用できれば良いと思うし、③の建て方であるとPFI方式が選択できない可能性が考えられることは気になる点ではあるが、結果的には③の建て方が良いと思う。

委員：具体的な土地の候補が出てきて改めて考えたところ、複数設置の③の建て方が良いが、ヒューマンエラーを考えると従事者の意識を保っていくことは②でも③でも両方必要であると思う。予算が可能であれば今のところ③が良いと思う。

委員：過去に大規模食中毒を起こした事例について、その後どうなったか調べてみると体制は変わっていなかった。今までは、1社に民間委託しているので、栄養教諭も配置されていない。せつかく市の給食センターを作るという決断をされたのだから、ビジョンの内容を含めて色々なことに使える給食センターの方が好ましいと思う。そう考えると、複数設置で、かつ小学校用と中学校用にして、仮に委託するのであれば別々の業者に依頼し、直営であれば運営委員会のようなものを作り、市や場合によっては一般市民にも網羅するような委員会にしていくことで、より市民との距離を近い給食センターにしてほしい。給食センターは市民のための施設ということを強くアピールし、大きく公募することで、敷地の確保はかなりできるのではないかと。八潮高校も市街化調整区域であるのに給食センターを建てられるのであれば、市街化調整区域に絞ってでも公募が出来たら良い。そのためには、どれほど市民に寄り添った給食センターにするかを市が打ち出せば、必ず反応があると思う。

委員：八潮高校の土地であれば理想は③の建て方だが、現実的に②と③の建て方では10億円（概算）も違う。建築費と人件費が現在も上昇しているため、将来的にはもっと差が出ると思う。ランニングコスト（概算）の5千万円の差についても、将来的にはもっと差が開くため、早めに八潮市が次のステップに進むことを考えると、運用面をきっちりできれば②の建て方でも良いかなと思う。

委員：あまりお金がかからない方が良いということを考えると、評価基準にあるランニングコスト等の概算費用が、あまりかからない方法の②の方が良いのではないかと思う。

委員：集中的な衛生管理ができ、持続可能であり、事業手法で③の建て方だと食数によってはPFIが難しい場合がある等の観点から②の建て方が良い。近隣市の複数設置の事例で、センターごとにやり方が違うという話も聞いたため、一元管理が出来るという点からも②の建て方が良いと思う。

委員：私も集中管理ができる②の建て方が良いと思う。敷地や予算があれば③の建て方でも良いと思うが、八潮市は食中毒事故が起きているため、2度と食中毒事故を起こさないという観点が一番重要だと思う。そうすると集中的な管理ができる②の建て方が良いと思う。また、PFI方式が③の建て方だと難しい可能性があるため、そういう点も含めて②の建て方が良いと思う。

委員：最初は③を考えていたが、②も良いかなと思う。②の建て方は集中管理ができ、食中毒を2度と起こさないことが大切である。ヒューマンエラーで食中毒事故は頻繁に起きているため、ヒューマンエラーを考えると1つで集中管理した方がよい。③の建て方であるとPFI方式が難しい可能性があるとの課題もあり、せっかく良いセンターが2棟できたとしても運用が衛生管理含めて十分にできない懸念もあるため、②の建て方が良いと思う。

委員：様々な意見をいただいたが、返還される土地の面積が現時点では分からない状況であるため、審議会としては建て替え用地含めた面積調整を県と関係部局で十分協議を行っていただくことを要望する。また、③の建て方でもPFI方式ができる場合があるのかどうか調べていただきたい。近隣市の状況や給食センターを新たに建てたところの情報収集を引き続き行っていただくよう審議会として要望したいと思う。返還される土地の広さ、財政面も考えると現時点では②か③を選びきれない。②の建て方であってもヒューマンエラーを含めた食中毒リスクをしっかりと排除した運用ができるのかどうか、かつPFI、ランニングコスト、建て替え用地等について、疑問点や懸念事項を踏まえて次の審議会で再度確認していきたい。

議事（3）公設給食センターの機能のあり方について

・資料1および当日追加資料「修正後（黄色）」に沿って事務局から説明
前回の審議会で委員から意見のあった下記2点の文言を修正

- ①「調理機器」ではなく「調理システム」とすることで、機器だけでなく仕組みから検討できる
- ②「地場産野菜を使用」ではなく「地場産農産物を使用」にすることで、様々な地場産物を活用できる

【質疑応答等（抜粋）】

委員：バイキング給食やおむすびの日等の給食を楽しめるイベントみたいなものは

考えているのか。

⇒事務局：栄養士の案として考えはあるが、詳細は基本計画の運用面で提案させていただきたいと考えている。

委員：給食センターができる前であっても何か楽しめるイベントを考えていただくと子どもたちは嬉しいと思う。

委員：地場産農産物のために特別な洗浄機能や泥を落とす機能は必要か。

⇒事務局：地場産野菜は泥がついている場合が多いため、他市では通常の洗浄の前に地場産野菜の泥を落とす洗浄機を追加して洗浄している事例もある。泥を落とす洗浄機があれば地場産野菜がより使えると思う。

委員：地場産野菜の洗浄施設の話が出たが、資料について「地場産農産物」としておくと果物や葉物以外の野菜等も含め、広く地場産物を活用できると思う。

6. その他

次回の当審議会の会議は、令和7年4月24日（木）午後2時から市役所2階保健指導室で開催する予定。

【議事（1）資料抜粋「優先すべき事項」】

第3回 学校給食審議会 資料から 修正後(番号削除)

議事(1)公設給食センターを整備する上でリスクを含めた優先すべき事項について

○ 優先すべき事項

- ・食中毒を発生させない徹底した衛生管理できる施設
- ・給食が停止した場合に早期再開可能な施設（リスク分散含む）
- ・子どもたちの意向に寄り添う、栄養バランスが取れておいしく・安全安心な適温給食を提供できる施設
- ・整備の実現性があり、同時期に全校に給食提供ができる施設
- ・災害に強い施設（施設の耐震化や浸水被害を受けない施設等）
- ・食物アレルギーに対応できる施設
- ・学校給食を活用した食育への対応ができる施設
- ・環境に配慮した持続可能な施設

⇒給食センターを整備をする上で最優先すべき事項とは何か

第4回 学校給食審議会 資料  13

【議事（3）資料抜粋「公設給食センターの機能のあり方」】

第3回 学校給食審議会 資料から 修正後(黄色)

議事(3)公設給食センターの機能のあり方について

**衛生管理の徹底ができる
安全で安心な給食施設** 〈方針1、優先すべき事項①〉

公設の給食センターで変わること

- ①新たな調理システム等の導入 〈方針2、優先すべき事項③〉
- ②地場産農産物を広く活用するための設備 〈方針3、優先すべき事項③⑦〉
- ③食育の充実につながる施設 〈方針3、優先すべき事項⑦〉
- ④食物アレルギー対応食専用調理室の整備 〈方針4、優先すべき事項⑥〉
- ⑤災害時に学校給食の早期再開への対応ができる施設 〈方針5、優先すべき事項⑤〉
- ⑥第三者によるチェック体制の構築 〈方針6〉
- ⑦その他の機能(市民に対して)
学校給食を広く知ってもらうための食育イベントの実施や災害時対応(備蓄等)

第4回 学校給食審議会 資料  16